

|     |   |    |         |     |      |    |    |    |    |
|-----|---|----|---------|-----|------|----|----|----|----|
| No. | ⑨ | 分類 | 2-(2)-イ | 資料名 | 会いたい | 学年 | 2年 | 領域 | 社会 |
|-----|---|----|---------|-----|------|----|----|----|----|

### 1 ねらい

- 拉致問題が重大な人権侵害であることを理解するとともに、解決に向けて一人一人が考えることの大切さを認識する。

### 2 趣旨

- 拉致被害者やその家族の苦悩や願いについて考えさせ、自らの問題として考えていこうとする姿勢を育てる。
- 在日韓国・朝鮮人の人々の思いを理解しながら、真の解決に向けて一人一人が何をすべきかを考えさせる。

### 3 配慮事項

- 地域性や外国人生徒へ配慮し、人と人との関係は国家の利益に左右されることはないことを理解させる。
- 政治的、政策的な問題には触れないようにし、人道的な観点からの学習を進める。

### 4 展開例

| 学 習 内 容  | 指 導 上 の 留 意 点   |
|--|---|
| 1 資料を読む。   | ・ 拉致問題についての補足説明をする。   |
| 2 拉致被害者の家族の思いを考える。<br>「突然この家からいなくなったら…」に続く気持ちを考えましょう。<br>・ ずっと毎日心配するだろう。<br>・ 楽しいと感じることがなくなる。<br>・ 時間が止まってしまう。<br>・ 夢も希望もなくなる。   | ・ 自分の家族がいなくなった状況を想像しながら、考えさせる。<br>・ 横田さんのお母さんのメッセージをもう一度読んでよい。  |
| 3 在日韓国・朝鮮人の人々の思いを知る。<br>○ 拉致問題のことを聞いてきた時のユミの気持ちを考える。<br>・ わたしのことをどう思っているのか。<br>・ 在日韓国・朝鮮人がいじめられないかな。<br>・ 早く解決してほしい。<br>「私」はユミにどんな話をするのでしょうか。<br>・ 悩みに気づいてあげられずにごめんね。<br>・ ユミには何も責任はないよ。<br>・ これからもずっと友だちでいてほしい。<br>・ いっしょにできることを考えよう。 | ・ 拉致問題は国家の一部の指導グループによる犯罪行為であり、在日韓国・朝鮮人の人々、また北朝鮮の国民には罪はないことを認識させる。<br>・ 拉致問題に関連して在日韓国・朝鮮人の人々へのいじめがあった事実を伝え、そうした行動の過ちに気づかせる。<br>・ 一人一人を尊重し、理解し、共生を求めていくことが、真の解決につながることを認識させる。 |
| 4 解決のためにできることを考える。<br>○ 「私にできること、私がしなければならないこと」について考える。<br>・ いろいろな人権課題に目を向ける。<br>・ 「被害者や家族の悩みや願いを忘れていない。これからも忘れない。」というメッセージを伝え続ける。   | ・ 拉致問題は必ず解決しなければならない問題であることを認識させ、社会全体で解決を図ろうとすることが必要であることを認識させる。<br>・ 自分の言動が、悩みを抱える人に勇気や希望を与えることを認識させる。   |

### 5 参考

- 本教育資料（平成14年度版）No.9「私が私であるために」の学習とつなげていくことができる。
- 学習にあたっては、アニメ「めぐみ」も活用できる。

1970年代から1980年代にかけ、多くの日本人が不自然な形で行方不明となりました。日本の当局による捜査や、亡命北朝鮮工作員の証言により、これらの事件の多くは北朝鮮当局による拉致の疑いが濃厚であることが明らかになりました。

平成14（2002）年9月17日、第1回日朝首脳会議において、北朝鮮は長年否定していた日本人拉致を初めて認め、謝罪しました。

日本政府は、北朝鮮当局による拉致被害者として、これまでに17人を認定しました。このうち5人については、北朝鮮当局が生存を認め、その後この5人は日本に帰国しました。残る12人の被害者について、横田めぐみさんや有本恵子さん（神戸市）を含む8人は死亡、4人は未入境であると、北朝鮮当局は主張しています。日本政府は、死亡したとされる8人について、「死亡」を裏付けるものが一切存在しないため、被害者は生存しているという前提に立って被害者の即時帰国と納得のいく説明を行うように北朝鮮当局に対して求めています。このほかにも拉致の可能性を排除できない事案があるとの認識の下、調査・捜査を進めています。

政府は、総理大臣を本部長、拉致問題担当大臣、内閣官房長官及び外務大臣を副本部長とし、すべての国務大臣を構成員とする拉致問題対策本部を設置しています。そして、被害者家族は、平成9（1997）年3月に「北朝鮮による拉致被害者家族連絡会（家族会）」を結成しました。また、支援団体として、「北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会（救う会）」、「北朝鮮に拉致された日本人を早期に救出するために行動する議員連盟（拉致議連）」、「特定失踪者問題調査会（調査会）」等があります。

国際連合においては、平成15（2003）年以來毎年、日本が提出している北朝鮮人権状況決議が採択され、北朝鮮に対し拉致被害者の即時帰国を含めた拉致問題の早急な解決を強く要求しています。

### 兵庫県内の中学生の皆さんへ

有本 明弘 嘉代子

娘恵子は、1960（昭和35）年、私たちの三女として、この長田に生まれました。幼いころからおとなしくて、引っ込み思案でしたが、私たちの言うことをよく理解してくれる子どもでした。

そんな恵子が、私たちの反対を押し切って、どうしてもやりたいと言ったことがありました。ヨーロッパへの語学留学でした。恵子は高校に進学したころから英語への興味が高まり、神戸市外国語大学に進学しました。そして卒業の直前になって、「イギリスに留学したい。」と言い出したのです。費用もコツコツと自分で貯めていたようです。恵子の幼稚園の時の先生も「引っ込み思案だった恵子さんが一人で外国へ行きたいと言い出すなど信じられない。」と言われましたが、それだけ、英語への関心が高く、自分の夢を実現したいという思いが強かったのだと思います。留学中の恵子は月に一度は手紙をくれていました。とても楽しそうで、とても積極的になっていたように感じました。しかし、その留学先で拉致をされたのですから、今となっては、「どうしてあの時、どんなことをしてでも留学を止めなかったのか。」と後悔の念ばかりが募ります。

1983年に音信が途絶えてから、30年の月日が経ちました。しかし、恵子のことを忘れる日など一日もありませんでした。「ちゃんどご飯食べているのかな」と、いつも思っています。「どんな気持ちで過ごしているのだろう。ずいぶん苦しい思いもしているのだろう。あの子の人生はいったい何なんだろう。」いろいろなことを考えてしまいます。私たちに心配をかけ、悲しませたことについても恵子は苦しんでいるのではないかと想像します。拉致が分かった20年前から、私たちは夫婦二人で救出を訴えてきました。街頭で署名も求めました。しかし、はじめのころはその署名もほとんどしてもらえませんでした。2002年、日本の首相が訪朝してやっと大きくとりあげられるようになりました。恵子が帰ってきてくれるその日まで、私たちは取組を続けます。決してあきらめません。

しかし、これまで、多くの人たちに支援をしてもらいました。ずっと支援をしてくださっている方がこんな手紙をくださったこともありました。「今は、東北に震災の復興のお手伝いにかけています。でも、有本さんのことは忘れてないからね。」という内容でした。「ある人の悲しみに気づける人は、いろんな人の悲しみにも気づけるのかもしれない。ひとつの課題に関心のある人は、他の多くの課題にも関心をもっているのかもしれない。」ふと、そんなことを思います。

在日朝鮮人の方の中にも、ずっと手紙をくださる方がおられます。メッセージと絵を刻んだ置物を送ってくださったこともありました。そこには、「一日も早く会えますように」という文字が刻まれていました。その方も、ご家族は今も北朝鮮におられ、会うこともできないようです。国交が正常化されて、いろんな問題が解決することを願っておられます。そう考えたら、私たちも、在日朝鮮人の方々も願いは同じなのかもしれません。拉致問題に関して、在日朝鮮人へのいじめが起こったことがありました。在日朝鮮人の方には何の罪もありません。人をいじめることは、ひきょうなことです。同じ人間として、仲良くするのは当然です。

私たちが、恵子のことをずっと思い続けているように、みなさんのご家族も、いつもみなさんのことを考えておられます。心配をかけないようにしてあげてくださいね。そして、先生方のおっしゃることもよく聞いてくださいね。先生方もみなさんのことをいつも考えておられますよ。

多くのことを学んで、いろんなことに関心をもって、だれもが「この国に生まれてよかった。」と思える国にしてください。これからの日本をよくできるのは、中学生のみなさんです。

平成25年12月